

未成年の喫煙 年46億本

12〜19歳の未成年者が少なくとも年間46億2200万本のたばこを吸っているとする推計を厚生労働省の研究班(主任研究者・尾崎米厚^{オノノミヒコ}鳥取大助教)がまとめた。尾崎さんは消費額は578億円、たばこ税額は354億円に上るとして、「このお金の一部でも未成年者の喫煙防止策に使ってほしい」と話している。

厚労省研究班

00年度に旧厚生省研究班が全国の中高生10万6千人を対象に実施した喫煙行動調査の結果を利用した。直近1カ月間の喫煙率は中1で男子6%、女子4%。高3で男子37%、女子16%だった。1日平均20本以上吸う人はたばこを吸う高3男子の16%、同女子の8%を占めていた。

中高生10万人
調査から推計

消費578億円・税は354億円

この喫煙率、本数を統計学的に処理し、年齢ごとの人口データにあては

433億円に上った。成人男性の喫煙率が減る傾向にある中、未成年者の喫煙防止策は大きな課題。発育中の肺はダメージを受けやすく、早く喫煙を始めれば発がんの危険性はより高まる。国の健康づくり計画の健康日本21は、10年までに未

成年者の喫煙をなくす目標を掲げている。00年度のたばこ販売総量は3245億本、税収は2兆3千億円。販売量に占める未成年者の消費量は1・4%になる。尾崎さんは「本来はゼロであるべき数字。全体からすれば小さいように見えても、100億円単位は大きい」としている。

20031321

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。